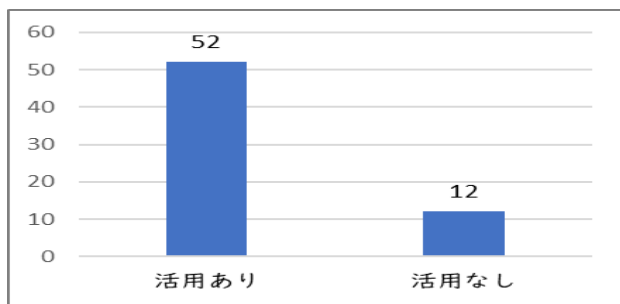


問1 篠山つながり手帳を配布した利用者数 184人



配布したCM数：52人

配布していないCM数：12人

問2 この1年間で上手く活用できている事例

- ・ 訪問看護と主治医とでバルーンの状態や交換時期等のやり取りが出来ている。急ぐときは、電話と併用し、上手くいっている。
- ・ 長い間受診につながらないケースで、支援者が毎回状況を受診に付き添って伝えていたが、専門医への受診につながった。現在病状は改善している。
- ・ 医師の、前では緊張して上手く質問できない人が、手帳を見ることで伝えられるようになった。
- ・ 事業所、リハビリ職、主治医、ケアマネジャーで共有できたことで、本人に納得感が得られた。
- ・ 夏に水分制限がありながらも、空調を自分でつけない人がいたが、クーラーをつけるように声をかけていただいただけで、水分制限などの注意点を共有できた。
- ・ 医師、サービス事業所、日常生活自立支援事業の支援員が訪問時や受診時に確認してもらって共有できた。本人も、支援者が訪問時にその都度見せてくれた。
- ・ 同居でない家族と訪問看護とのやりとりに活用されている。
- ・ デイケア、家族、医師、歯科医師が手帳で情報共有できている。
- ・ 事業所間で機能訓練の内容を共有でき、本人のADLが向上した。
- ・ 要介護5で、多事業利用の方は、変調・不調など共有できるためとても役立っている。
- ・ デイサービスから家族へのメッセージを共有できる。
- ・ デイサービスや訪問介護事業所が様子や変化を記入し、受診時に家族が持参。医師が、診察・結果を詳しく記入してくれることで連携が安心してスムーズにできている。
- ・ 主治医・訪問看護・デイサービスと情報を記入し連携できた。
- ・ 主に短期入所の方が受診時に施設の看護師からかかりつけ医に確認したい内容を記入してやり取りができた。
- ・ 訪問看護利用時のバイタルや状態を記入してもらうことで状態把握ができている。
- ・ 訪問の時に、つい見ることを忘れる。
- ・ 理学療法士のリハビリの様子を3カ月毎の入院の際に、主治医に伝えることができる。
- ・ 心不全の利用者で、体重の記録ノートとして、デイサービス・家族・医師の情報共有に活用。
- ・ 処置の必要な利用者の訪問看護から通所サービスへの伝達がスムーズにできる。
- ・ 日々の状態を主治医と関係機関とで連携できており、早期受診につながっている。
- ・ 訪問看護やデイサービスの看護師が浣腸の様子や具合を細やかに記入してくれるので、他の事業所の様子が見わかる。
- ・ 訪問介護・通所介護・訪問看護・医師で、体重や水分、体調についての情報共有が出来ている。
- ・ 1日のデイケアと半日デイサービス・訪問介護利用時の様子や受診結果を記入し、服薬時間の調整やその他の自宅での様子なども連絡できている。
- ・ 2か所のデイサービスを利用している方で、精神科の薬が変更となる時等、日中の様子を手帳に記入してもらうことで状態がわかりやすく、家族の安心につながっている。
- ・ デイサービスと訪問看護が、本人の血糖値や血圧、様子をなどを共有できた。
- ・ 体重の変化がよくわかったと家族が言われる。

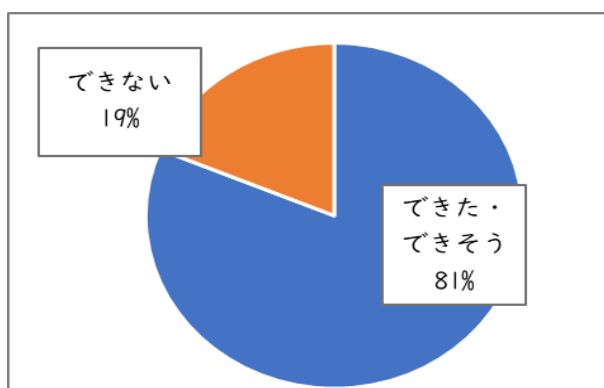
- ・ 各サービス事業所が、利用者の様子を詳しく書き込んでおり、お互いに状況の把握ができています。
- ・ 訪問介護・訪問看護・通所介護間で情報共有をしている。
- ・ 最低週3回の書き込みがある。
- ・ 基本的にMCSのやり取りだが、インターネット環境にない事業所への補完的な役割を果たしている。
- ・ 受診時の血圧・体調の状況をデイサービスと情報共有できている。
- ・ 独居の利用者で、訪問看護・家族・事業所・ケアマネジャー間で、服薬状況や腹痛時の処置を共通理解し、同じように対応することができた。
- ・ 訪問看護・医師・介護サービス事業所・ケアマネジャーが、体重や希望する処置、本人の体調確認で連携出来た。
- ・ 家族・デイケア・デイサービスで上手く情報共有できた。
- ・ 多事業所での関りに役立っている。通院時に医師にも確認してもらい、日々の様子が共有できる。
- ・ 利用しているサービスが多い利用者は、支援者が各々伝えたいことや聞きたいことを書いて活用している。訪問看護が「自宅で運動するなら何が良いか」と記入したら、デイケアのリハビリ職が「このような運動をこのくらい」と具体的に返信してくれている。
- ・ 難病があり、上手く自分の病状を伝えることが出来ない方が、デイケア・訪問介護・医療・ケアマネジャーと手帳を通じて情報教諭できている。
- ・ 訪問看護が訪問の度に記入してくれ、利用者の様子（体調面）の変化がよく解り助かっている。
- ・ 高次機能障害により、現状を自分で伝えることが難しいため、医療機関や介護サービス事業所へ持参し活用している。
- ・ 家族が日々の様子を随時記入されており、情報共有がしやすい。
- ・ サ高住に入居し、通所や訪問でリハビリを受けている利用者。サ高住の事務所で手帳を管理してもらっている。通所と訪問でリハビリの様子を共有でき、福祉用具の選定相談ができる。
- ・ 病院入院中のリハビリの様子をつながり手帳に担当の療法士が記入。退院後、各サービスにつながり手帳の内容を周知できた。
- ・ 本人・家族・主治医・デイサービス・ショートステイ・ケアマネジャーが各々で情報入力し共有できている。
- ・ つながり手帳を長年利用している利用者が、9月末より訪問診療・訪問看護が加わり、本人の状態がわかりやすく、繋がっている感があって安心する」と介護者より聞いている。
- ・ 訪問・通所のサービスがあり、日々の様子を情報共有できているケース。
- ・ 訪問診療の医師もみて、状態を把握してくださるので、少し悪くなった時の対応が早い。
- ・ 訪問看護事業所との情報共有がスムーズにできた。
- ・ 体重管理が必要な方で、デイサービスの体重値を手帳に表を貼ってくれて、一目で確認できるようになった。

問3 上手く活用できていない事例

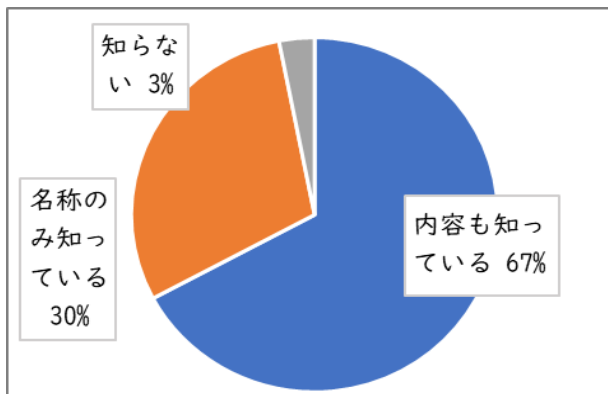
- ・ 支援者が必要と思って配布しても、利用者を通じてつながるので、回らないことがある。
- ・ 手帳を持たず、別の紙でやり取りされている。
- ・ 受診時に持参してもらえない。
- ・ ケアマネジャーの訪問が頻回ではない為タイムリーに見ることが出来ない時があるが、つながり手帳を渡している利用者は、他の利用者よりも早めに訪問するようにしている。
- ・ 家族の思いを長文で書き込みされ、大切な情報（医療と連携したい情報）が埋もれてしまう。
- ・ 訪問看護と他のサービスの場合は、つながり手帳を渡しても独自のノートを作られており、それに記入される。
- ・ 手帳に記入する手間やタイミングを減らすため、直接電話で報告し合う形が多い。
- ・ 本人（独居・認知症）が手帳を紛失するため使用をあきらめた。
- ・ 医療関係者の中には、依頼しないと記入してくれない場合もあり、利用者の負担が大きい。

- ・ 訪問看護・デイサービス・管理栄養士の介入があり、連携をしたいが、ノートがどこにあるかわからず困る。
- ・ つながり手帳前から大学ノートで訪問介護・デイサービス・主治医間のやりとりをしていた。つながり手帳が加わってしばらく両方を使用していたが、途中で大学ノートだけになった。
- ・ デイサービス・ショートステイは施設独自の連絡帳があり、つながり手帳への記載ができない。
- ・ デイサービスが1か所しかない場合、デイサービスのノートがあるので他事業所との共有がない。
- ・ デイサービスの連絡帳とつながり手帳の両方を記録するのは手間。
- ・ 概ね必要な情報共有ができていない。
- ・ 初回に渡した利用者に利用サービスがないため活用の機会がない。
- ・ 使いたいと言う利用者には配布しているが、多くは放置なのか使用状況が確認できていない。
- ・ 家族が準備された連絡帳を使用している。
- ・ サービス事業所から色々記入してもらっても、医療機関で見ていただくことがあまりない。
- ・ 家にあるだけで、持ち歩けていない。
- ・ 各サービス事業所で連絡ノートがある為、つながり手帳まで記入するのは二度手間になると消極的。
- ・ 通所介護事業所独自の連絡帳があると、つながり手帳には記載されない。すると、病院等に持参されても記入がないので意味がない。二冊への記入を嫌がられる。
- ・ デイサービスの連絡帳の様な使い方だったので、必要時のみの記入にしてもらうように調整した。
- ・ 医師へと思って記入したが、返事がない。本人が医師に渡していない事があった。
- ・ 受診時に医師が見ているのかサインがないのでわからない。コメントの有るなしに関わらず、サインが欲しい。
- ・ 持っているだけになっている。ほとんど記載がない。
- ・ 関係機関での情報共有に時間を要するため、電話連絡での対応が多い。手帳が置いたままで活用できていない。
- ・ 独居の利用者に配布したが、めったに来られない遠方の家族に上手く活用する方法が見当たらなかった。
- ・ しまい込んでしまい、持ち歩かない利用者がある。
- ・ 事業所からの要請で追加したが、本人の意識が乏しく、有効に利用できない。
- ・ 本人や家族に説明し、最初は持参しているが、記入されていなかったりすると次第に持参しなくなった。
- ・ 通所とグループホーム（障害福祉サービス）の連絡帳になっているが、それもひとつの良い活用方法と思う。
- ・ 誰も書かない、誰も見ない時には上手く活用できない。
- ・ 意思表示かできる利用者で、急ぎの用事がある場合は、電話で情報共有することが多く、あまり活用できていない。
- ・ 家族からの連絡は事業所作成の連絡ノートに記載され、つながり手帳を活用できていない。

問4 ACPについて説明できたか、できそうか。



問5 ヘルスケアパスポートのことを知っているか



問6 ヘルスケアパスポートについての質問や期待すること

- ・ ささやま医療センター「メディカルケアステーション」のようにタイムリーに情報共有ができるのは良いが、本人・家族にどこまで開示して個人情報が流れるか心配。
- ・ 医療との連携が今よりもしやすくなることを期待する。
- ・ 医療機関との情報共有がしやすくなれば、利用者からあいまいなまた聞きにならず、確実な情報をアセスメントできるのではないかと期待する。
- ・ 医療機関と事業所間で、情報のやりとりがパソコンでできると便利になる。
- ・ 個別チャットや写真、動画、ファイルデータのやり取りはもちろん、関係者同士で気軽にコミュニケーションがとれるツールであることを期待する。
- ・ 利用者の状態や薬・治療の内容など、日々更新される新しい情報が、誰でも使いやすい内容になればよい。
- ・ 使用の開始の時期はいつか。
- ・ 医療機関とスムーズに連携がとれるようになると良いと思う。
- ・ 実際にヘルスケアパスポートが実施されれば、医療と介護の連携ができ、素晴らしいと思う。しかし、情報の移行作業や個人情報の管理が難しいと思う。
- ・ サービス事業所間での連携がとりやすくなると良いと思う。
- ・ 介護と医療や各介護サービス事業所間の連携が円滑になれば良いと思う。
- ・ 関係する事業所の書き込みがあった時に、すぐわかるような感知機能が欲しい。
- ・ ケアマネジャーが欲しい情報は限られていると思う。（病名・服薬・検査結果・主治医意見書・ワクチン接種歴程度）
- ・ 独居や認知症の利用者に協力が得られるのか心配。また、ケアマネジャー自身も使いこなせるか不安。しかし、浸透すれば今後は非常に便利になると思う。
- ・ 知りたい情報が事業所間で共有できるようになることを期待する。
- ・ 利用者のことで知りたい情報を知ることができるようになることに期待する。
- ・ 情報共有が出来て良いと思うが、個人情報の取り扱いが難しいのではないかと。
- ・ 利用者の体調の変化に気づきやすくなることに期待する。
- ・ 関係機関と今よりももっと連携が図りやすくなることに期待する。
- ・ 本人の情報をタブレット等で調べてすぐにわかれば、救急対応等の緊急時に既往歴や現病歴、薬、主治医からの注意事項、緊急時の家族の連絡先等を伝えることができると思うので、緊急時の対応に活かせたらと思う。
- ・ スムーズなチーム内での情報共有、医師との関りがとりやすくなれば良いと思う。
- ・ 主治医と連絡がとりやすくなることを期待する。
- ・ 訪問時に緊急受診で救急搬送が必要になった時など、情報共有ができれば速やかに対応できる。
- ・ 利用者や家族にもわかりやすく、使いやすい物にして欲しい。
- ・ 訪問先ではネットにつながる物が使用の携帯電話しかないのでは、利用者宅にいった時に確認ができないのではないかと。使用の携帯電話にヘルスケアパスポートを入れると、個人情報のこと等、とても心配なので難しいかと思う。
- ・ 既往歴や検査結果、薬剤情報など、医療情報を正確に共有できることを期待する。